

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

別添 4

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等小学 6 年生 社会科 総合的な学
習の時間目標・人権教
育のねらい

- ・ハンセン病について正しく理解するとともに、社会における偏見や差別が患者さんたちを強く苦しめたことに気付くことができる。
- ・ハンセン病患者に対して自分たちができることを話し合い、意思決定をすることができる。
- ・ハンセン病患者に対する思いやりの心もち、相手の立場に立って行動しようとする意欲や態度を養う。

実施した内容

- ・資料や年表から、ハンセン病の症状、国のハンセン病への対応について調べ、ハンセン病患者やその家族が偏見や差別によって強く苦しめられた事実を理解する。
- ・「ハンセン病患者と家族の声」を読み、患者やその家族が受けた苦しみについて考え話し合う。
(1 時間)
- ・オンライン授業で、国立ハンセン病資料館学芸員からハンセン病について学ぶ。
(2 時間)

工夫した点

- ・外部講師（国立ハンセン病資料館学芸員）による授業を行ったり、国が発行する資料を教材化したりすることで、ハンセン病について正しく理解できるようにした。
- ・話し合いを行う時に、児童に「自分だったらどのような思いになるか」という視点で考えるように指導し、ハンセン病患者等の苦しみを自分のこととして考えられるようにすることで、相手の立場に立って行動することの大切さに気付けるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、特別の教科道徳の内容項目 D - (19) 命の尊さに関わる教材で学習し、その後、行動力を育むための取組を行った。

事業成果

知識：同和問題に関わる学習とつなげて考え、正しく知ろうという意識をもって学び考えた。
 価値・態度：法律や政治、周りからの偏見など、差別を生み出す問題に対して「おかしい、間違っている、正していきたい」という思いをもつことができた。
 技能：学んだことを家族に伝え、教えてあげたい、もっといろいろ知りたいという気持ちをもつ児童もいた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病問題を他人事としてではなく、自分自身の問題として受け止めながら、二度と同じような過ちが繰り返されないよう、ハンセン病について正しい知識を学び、偏見や差別を許さない心情や態度を育成する。

実施した内容

- ・厚生労働省作成のパンフレット「ハンセン病の向こう側」（中学生向け）を読んで、ハンセン病について、正しい知識を学び、ハンセン病回復者やその家族の思いを理解する。（1時間）
- ・病気の原因や治療法が発見されたにもかかわらず、ハンセン病患者や家族に対する偏見や差別がなぜ生まれたかについて、グループで考える。（1時間）
- ・教材「中学生のみなさんへ～ハンセン病と私～」（わたしの願い）を学習し、徳島県ハンセン病支援協会会長の著書の中で紹介されている回復者の思い（抜粋）を聞き、自分の考えをまとめる。（1時間）

工夫した点

- ・ハンセン病に限らず、感染症や難病については、種類も多く、個人差があるため、外見から患者だとわかる場合もあれば、外見からは判断できないこともあるため、病気に対する偏見や無理解により、差別を受けることがあることに気付かせるよう工夫した。
- ・患者に対してだけでなく、その家族に対する偏見や差別をなくしていくことも大切であることに気付かせるよう、患者の家族の体験談等を紹介した。
- ・ハンセン病に対する無関心が差別を残す原因になっていること気付かせるよう工夫した。

他教科との
関連

- ・保健体育科の授業でハンセン病について学習した。